

令和6年度 第1回 八代市立図書館協議会 会議録

日 時：令和6年11月25日（月）午後3時

場 所：八代市立図書館 大集会室

出席委員：上塚委員、宮嶋委員、涌田委員、徳田委員、市村委員、橋野委員、桑原委員

欠席委員：森下委員、桐委員

事務局：中教育長、田中教育部長、下津教育部次長、泉課長、西村係長、永吉参事、
吉野館長、田口統括責任者、本田せんちょう分館長、木場かがみ分館長

欠 席：松本教育部次長

公開状況：公開

傍 聴 者：0名

- 1, 開会
- 2, 委嘱状交付
- 3, 教育長挨拶
- 4, 自己紹介
- 5, 会長・副会長選出
- 6, 会長挨拶
- 7, 議事

事務局：【1】図書館運営について(報告)

●図書館運営について

入館者数に伸びがあるが貸出冊数が若干減っている。入館者数が増えた経緯について1つは、ロビーなどでいろんな団体様が展示をしていること、次に学習での利用が増えてきていることが考えられる。入館者数は増加しているが貸出冊数が若干減少しているので図書館としても入館して頂いた方に本を借りてもらえるような取組をしたいと思っている。

●電子図書館の取り組みについて

児童図書読み放題サービス『講談社朝読おすすめパック』『講談社YAパック』『KADOKAWA まんが学習パック』『小学館世界J文化パック』『世界文化社季節・行事絵本パック』全256タイトルを今年度購入した。数字では読み放題の貸出冊数が年々増えている。これはこの読み放題のパックを購入したものが反映されている。TRC-DL マガジン(電子雑誌読み放題サービス)が9月末現在で265タイトルを所蔵している。データベースのデジタル伊能図も閲覧可能である。特集展示は月に一度入れ替えをし、季節に応じた図書や学習、読書、趣味に関する本を紹介している。

読書支援サービスとして電子図書10冊を定期的に入れ替えしている。音声読み上げ機能付

き図書も 9,706 冊ほど所蔵している。独自資料として図書館講座で利用したテキストや八代市のガイドマップ、地元作家の図書をデータ化し公開している。また、図書館の便利な使い方講座で電子図書館の使い方を広く利用者の方に周知している。

●図書館運営方針に伴う令和 6 年度の取組について

(1) 郷土を拓く人を育む図書館

①課題解決に取り組む市民の読書活動の推進

第 8 回八代市立図書館を使った調べる学習コンクールを開催する。応募期間は 8 月日から 10 月 1 日まで。学生の夏季休暇中に調べる学習おたすけ講座を 3 回開催し全体で 32 名の参加があった。

②情報化社会の進展に合った情報提供の充実

八代市児童生徒における電子図書館での貸出サービスのため、令和 6 年度も新一年生全員の電子図書館 ID の登録を行った。また、図書不足の解消を行うため今年度も読み放題図書を 256 冊購入した。電子図書館の特集コーナーを月に一度入れ替えをし、季節に応じた図書や学習、読書、趣味に関する本を紹介している。図書館サービスやレファレンスサービス（調査や研究のための資料探しや必要な情報の探し方をお知らせし調べ物をお手伝いするサービスのこと）は、これを必要とする利用者へのサービス向上のため、総合窓口（レファレンスカウンター）での対応を今後も充実させていく。

③子どもの読書活動の推進

ブックスタート事業、定期的なおはなし会、図書館講座を継続するとともに学校や保育園、幼稚園、産婦人科、子育て支援センターへの出前講座や団体貸出配本を実施している。

(2) 市民のニーズに応える図書館

①ユニバーサルデザインの視点を踏まえた環境整備やアクセシブルな資料の充実

令和 3 年度から実施している読書支援サービスの普及のため「やさしい利用案内」での案内、アクセシブルな資料の充実、拡充を行なっている。また、障がいのため来館に困難を感じている方へはアクセシブルな書籍の郵送サービス（こちらは視覚障害者のみ）や電子図書館でのデージー図書の貸出を継続して行っている。また、紙に印刷された資料だけでなく特別なニーズのある方を対象とした利用しやすい形式の資料の収集をしている。また、読書を支援するためのツールとしてりんごの棚を設置し、読書バリアフリー活動の普及に努めている。アクセシブルな書籍とは障がい者等が利用しやすい書籍のことである。例えば点字図書、拡大図書、LLブック、触る絵本、布絵本、音声読み上げ対応の電子書籍、デージー図書などを指す。

②外国語資料の充実

英語でのおはなし会やイベントを継続して行うとともに外国語資料の収集および提供を継続して行う。また、英語以外の図書や日本語学習の資料をそろえた多言語コーナーを設置している。

③地域における読書活動の充実

移動図書館を運行し図書館から遠い距離にある遠隔地の市民への図書提供を行うとともに、学校や福祉施設の要望に沿った図書の団体配本も行っている。

④定住自立圏協定による広域連携サービスの実施

氷川町及び芦北町との定住自立圏協定による相互利用(利用者カード登録、図書貸出)を継続して行っている。

⑤県立図書館をはじめとした他、自治体図書館との連携

相互貸借などを行い、県立図書館や他自治体図書館との連携を継続している。

⑥図書館の施設整備

令和5年度より開始したICバーコード、ICゲート等のIC機器による図書の管理及び自動貸出機での貸出を継続して行い、利便性の向上に努めている。

⑦指定管理者による運営

連携を図りながら、より高度で効率的な図書館サービスの提供をこれからも行っていく。

(3) 八代の文化を支える図書館

①文化創造機会の提供

- ・プログラミング講座「ロボットこくりをうごかしてみよう」を定期的で開催し、実際にロボットを動かしながらプログラミングを学ぶきっかけを作っている。
- ・図書館講座「野菜づくりのコツと裏技」を本館で行った。野菜づくりの方法や肥料づくりの方法などを学んだ。地域の方々の交流の場となった。

②各館ごとの特色あるサービスの提供

教育機関、各種施設、市民団体等と連携した展示コーナーやイベントを積極的に行い、郷土八代の魅力を発信した。

本館では総合窓口の設置、郷土文庫コーナーの設置、せんちょう図書館では「かがくあそび講座」、まなびフェスタの参加、かがみ図書館では「かがみマンガWeek」、鏡文化センターとのコラボ展示などである。

(4) 市民協働による図書館

①学校との連携強化、協働による事業の充実

図書館資料や情報提供、読書活動推進へのアドバイスをを行うなど、学校や学校図書館との連携を継続して行っている。取り組みの一例として今年度の学校図書館支援員研修会で「こどもが本に興味を持つような図書館運営について」講演とアニメーションの実施をした。

また、団体貸出配本等も行っている。

②地域施設・ボランティアとの連携・協働による読書推進

地域の団体との連携により展示やイベントを開催。取り組みの一例として「がん検診受診率 50%達成に向けた集中キャンペーン月間イベント」を行った。こちらは保健センターさんや労災病院さんと協働の上行っている。また、博物館出張講座「学芸員のこ

だわり八代学 in 図書館」を行った。こちらは市立博物館が今休館となっているので、その間本館で出張講座として講座を行なっていただいている。

③自主事業への市民参加

こども読書週間に合わせ「春の図書館まつり」、秋の読書週間に「秋の図書館まつり」を開催した。また、令和7年2月に「としょかんマルシェ」を開催予定。

④図書館運営への市民参加

市民の方々や有識者の意見を図書館運営に反映するため、図書館協議会を適宜開催し透明性の確保、及び図書館サービスの向上を図っていく。また、利用者アンケート調査にていただいた意見を図書館運営に反映させる。

委員：入館者数が増えているというのは夏休みの学生が多かったというのが表を見てわかった。ICを取り入れて不明本がかなり少なくなったということだが、具体的にどのくらいの効果があったのか。

事務局：ICが入る前まで全体で不明本が本館で毎年700冊程あった。それが令和5年度、ICが入ってから行った蔵書点検では18冊に減った。かなり大きな効果があったと思っている。

委員：いろんな講座を行っているが、どのような感じで行ったのだろうか。

委員：「子どもが本に興味をもつような図書館運営について」の講演とアニメーション実演は、どのような取り組みがされたか。また、学びがあった部分があれば教えて頂きたい。

事務局：毎年学校の図書支援員をされている先生方に向けて講演を行っている。今年度はアニメーション（本をつかったゲームみたいなもの）を行った。参加された支援員の先生方と一緒に「桃太郎」を題材にしたアニメーションを実践した。先生方には、学校にそれぞれ持ち帰って頂いて、学校でもこういうことができるというご提案をしている。

委員：各館毎の特色あるサービスについてかがみ分館のマンガを楽しみにしている。マンガの購入時期や、新刊が出る時期はいつか。

事務局：はっきりと申し上げられないが、年に何回かに分けて買うようにはしている。マンガWeekに合わせて多く新刊を出しており、年に500冊程新刊は入れている。しかし、マンガの予約ができないので、かがみ分館まで来館していただき、そこにあれば借りていただけるというシステムをとっている。目的のマンガがない時は「残念。また来よう。」となってくださると嬉しいなという狙いがある。

委員：マンガWeekのあたりは新刊がでるから確認しておく。

委員：電子図書が読み放題図書として256冊購入しているという事でありがたいなと思う。利用者の年齢は分からないのだろうか。児童が借りていると聞いているが、どれくらい利用があるかを知りたい。

事務局：学校利用者としての数は分かるが年齢の内訳まではこちらで把握ができない。

委員：中学生で本が好きな子は、電子図書も考えたりするらしい。しかし、読みたい本がヒットしないというのを聞いた。児童がどれくらい電子図書館を利用しているのか、それを

目当てに購入するというのもなかなか難しいだろうと思うがどうだろうか。

事務局：読み放題は一年間で期限が切れるので毎年違うものを入れている。期限と貸出回数が決まっているコンテンツが多い。その分利用者に楽しんで頂けるものを毎年購入している。学校でよく読まれている本は分かるが、利用されている児童生徒さんから直接「こういった本を電子図書館で読みたい」という声があると図書館としても購入の参考にさせていただけるのでありがたい。是非声を聞かせていただきたい。

委員：大変ご苦労なさって色々なイベントをされていることが分かった。そこで参加者からどんな反響があるか「難しかった。あれがよくなかったな。」など、そういった意見はあるか。

事務局：参加された方からどのイベントもおおむね良かったと言っていたことが多い。特に野菜作りの講座は申込開始してから二日くらいで定員に達するなど、かなり人気の講座だった。八代の地域性もあると思う。野菜作り、花作りされている方はとても多いと思うので、またこういう講座は定期的に行っていきたいと思っている。

委員：私も安心した。

委員：講座の発信というのはどんなかたちで発信されているのか。

事務局：ホームページやチラシの配布、広報やつしろ、コミュニティセンターだより(コミセンだより)、あと SNS を通じて発信している。

委員：たくさんご意見が出たので参考にさせていただければと思う。

事務局：【2】利用者アンケートについて(報告)

本館、せんちょう分館、かがみ分館、移動図書館で紙のアンケートを配布した。それと同時にホームページ上でもアンケートを実施している。期間は8月1日から9月30日までの2カ月間。サンプル数は793人。今年度は設問の中に分館の開館時間について入れている。また、分館もそれぞれに利用者層が違うので前年度はかがみ分館とせんちょう分館は分館としてまとめて結果をご報告したが今年度はそれぞれで報告をする。また、移動図書館の分は本館にまとめている。

①八代市立図書館本館のアンケート調査について

サンプル数は491人。年齢は70代の利用が一番多く次に10代以下の利用が多いことが分かった。10代以下が多いということで学習での利用が増えてきているというところが見える。

令和5年度は60代、次いで40代の方が多いという結果だった。

次に、職業については図書館利用のうち就業者の利用が約3割、未就業者の利用が約5割であることが分かった。

本館を利用する目的として約7割の方が「図書(DVDを含む)等を借りるため」や「図書等の閲覧」で利用していることが分かった。「勉強、自習で利用する」は前年度の結果が7%で今年度は11.5%と若干の増加が見える。また、調べ物で利用される方も前年度は

11%だが今年度は12.6%と入館者数が増えている結果として分かった。

市立図書館を利用する頻度は本館を利用する頻度は「月に2・3回」利用する人が最も多く、次に「月1回」という結果になった。これは前年度も同じ結果である。

図書館のお知らせや情報は「ホームページ」と「広報やつしろ」から知る人が多い事が分かった。こちらも去年と同じ結果である。

来館する手段の交通手段としては7割近くが「自家用車・バイクで来館している」という結果になった。こちらも結果は去年と同じである。

図書館の滞在時間については6割が「1時間未満」だが「1～3時間程度」滞在する方も3割いることが分かった。去年は8割の方が「1時間未満」だったのでコロナが緩和されて少し滞在時間も長くなってきていることが分かった。

「八代市電子図書館を知っていますか」に対しては「電子図書館を知っているが利用したことがない」という方が約6割となった。

「移動図書館を知っているが利用したことがない」が去年は72%だったのが本年度は58%なので利用されている方が増えてきていることが分かった。

「利用したい図書がそろっていますか」という問いに対しては「利用したい図書が揃っている」と約5割の方の回答があった。

「今後より充実してほしいサービスは何ですか」という問いに対しては「図書館資料の充実」が一番多く次に「駐車場の整備」が多いという結果になった。「図書館資料の充実」という問いに対しては昨年度が34%だったのが29%に（減少し）、「駐車場の整備」に関しては昨年度が20%だったのが今年度は26%に増加した。

「総合的にみて市立図書館にどの程度満足していますか」という問いに対しては「大変満足」と「満足」が8割近くという結果だった。

②せんちょう分館のアンケート調査について

サンプル数は150人。年齢は10代以下の利用が一番多く、次に40代の利用が多いことが分かった。せんちょう分館が千丁小学校の目の前という立地なので小学生の利用が多いという結果が伺える。

職業はせんちょう分館利用者のうち学生が約2割、就業者の利用が約3割であることが分かった。

「どのような目的で図書館を利用されていますか」に関しては約6割の方が「図書（DVDを含む）等を借りるため」や「図書等の閲覧」、次に「勉強（自習）」のために利用している方が約2割いることが分かった。せんちょう図書館は小学校の前なので図書館で勉強する児童も多いということがこの結果からも伺える。

「利用する頻度」は、「月に2・3回」が最も多く、次に「週に1回」という結果となった。

図書館からのお知らせや情報は「ホームページ」と「広報やつしろ」から知る人が多いことが分かった。

来館する際の交通手段については約 6 割が「自家用車・バイクで来館している」という結果になった。

図書館の滞在時間は 8 割未満が「1 時間未満」という結果になった。

せんちょう分館・かがみ分館の開館時間について約 8 割の方に「今まで通り 18 時（午後 6 時）までが良い」と回答をいただいた。

「八代市電子図書館を知っていますか」という問いに関しては「電子図書館を知っているが利用したことがない」という方が約半数となった。

「移動図書館を知っていますか」という問いに対しては「知っているが利用したことがない」という方が 6 割弱となった。

「利用したい図書などがそろっていますか」という問いに対しては「利用したい図書などがそろっている」と 6 割の回答があった。

「今後充実してほしいサービスは何ですか」という問いに対しては「図書館資料の充実」が一番多いという結果になった。

「総合的にみて市立図書館にどの程度満足していますか」という問いに対しては大変満足と満足が約 8 割という結果になった。その他のご意見については割愛する。

③かがみ分館のアンケート調査について

サンプル数は 107 人。年齢は 60 代 70 代の利用が多いことが分かった。

職業は就業者の利用が約 3 割、未就業者の利用が約 4 割であることが分かった。

「どのような目的でかがみ図書館を利用されていますか」という問いに対しては約 8 割の方が「図書（DVDを含む）等を借りるため」や「図書等の閲覧」で利用しているということが分かった。

かがみ分館を利用する頻度に関しては「月に 2・3 回」が一番多く、次に「週に 2・3 回」という結果になった。

図書館からのお知らせや情報は「広報やつしろ」から知る人が一番多く、次に「ホームページ」や「チラシ、ポスター」から知る人が多いことが分かった。

来館する際の交通手段としては 9 割近くが「自家用車・バイクで来館している」という結果になった。

図書館の滞在時間については 8 割近くの方が「1 時間未満」という結果になった。

せんちょう分館かがみ分館の開館時間については分館の開館時間について 9 割以上の方から「今まで通り 18 時（午後 6 時）までが良い」と回答があった。

「八代市立電子図書館を知っていますか」という問いに対しては「知っているが利用したことがない」という方が約 4 割となった。

「移動図書館を知っていますか」という問いに対しては「知っているが利用したことがない」という方が 8 割弱となった。

「利用したい図書などがそろっていますか」という問いに対しては「利用したい図書がそろっている」と約 8 割の方が回答した。

「今後より充実してほしいサービスは何ですか」という問いに対しては「図書館資料の充実」が一番多いという結果になった。

「総合的にみてどの程度満足ですか」という問いに対しては「大変満足」と「満足」が9割以上という結果になった。

④ホームページ上でのアンケートの結果について

サンプル数は45人。年齢は30代の方が一番多く次に40代の方が多いということが分かった。

職業は就業者の方が約7割、未就業者の方が約3割という結果になった。

「どのような目的で市立図書館を利用されていますか」という問いに対しては約6割の方が「図書（DVDを含む）等を借りるため」や「図書等の閲覧」で利用しているということが分かった。

市立図書館を利用する頻度については「週に1回」が最も多く、次に「月2・3回」という結果になった。

図書館からのお知らせ情報については「ホームページ」と「広報やつしろ」から知る人が多いということが分かった。

来館する際の交通手段については5割近くの方が「自家用車・バイクで来館している」という結果になった。

滞在時間は約8割が「1時間未満」という結果になった。

せんちょう分館かがみ分館の開館時間については約9割が「今まで通り18時（午後6時）までが良い」という結果になった。

「八代市電子図書館を知っていますか」という問いに対しては「知っているが利用したことがない」という方が約5割となった。ただ、利用している方も4割いることが分かった。

「移動図書館を知っていますか」という問いに対しては「知っているが利用したことがない」が8割となった。

「利用したい図書などが揃っていますか」という問いに対しては「利用したい図書が揃っている」と約6割の方の回答があった。

「今後より充実してほしいサービスは何ですか」という問いに対しては「図書館資料の充実」が一番多いという結果になった。

最後に「総合的にみてどの程度満足していますか」という問いに対しては「大変満足」と「満足」が約9割という結果になった。

委員：本館、分館においてもおおむね満足度は高いことが分かった。しかし、それぞれいろいろな意見があると思う。例えば「図書館からのお知らせ情報」は、広報やつしろの割合が大きいと全館挙げているので、いろいろな取組を掲載していくとよいと思う。

委員：月に一回幼稚園で図書館に来館し、本を借りる経験をさせている。子どもたちも大変喜

んでいる。

質問の中に「電子図書館を知っていますか」「知っているけど利用したことがない」という方が多いように見える。私自身、電子と聞くと難しいと思ってしまい、図書館に行くことを優先してしまう。電子図書館を知っているのに利用していないという回答はどんな理由が考えられるだろうか。

事務局：電子は苦手意識を持っている方が多いというのは感じている。電子図書館の使い方をお知らせする講座を行ったり、デモンストレーション用に電子図書館を実際に触って体験できるパソコンも本館に準備したりしている。来館時に「電子図書館を使いたいがよくわからない」という方も多いため、その際はスタッフがデモンストレーション用のパソコンにご案内をし、説明をしている。電話で問合せがあれば実際に画面を開き、確認しながら説明している。しかし、使い方や便利な点は今後もっと発信していくべきだと思っている。

委員：八代は地域の環境として田舎だと思う。田舎は電子図書館を見る暇がない。私はマンガを移動図書館で毎月10冊借りている。歴史マンガなどは面白く、非常に為になると思う。熟語などを注釈しており、私自身書いて覚えたりしている。

マンガは為にならないような気がするが、そうではない。

以前から言っているようにマンガ本はだんだん揃えているか。

事務局：移動図書館の方にも歴史マンガは毎年新刊を入れている。

委員：足りない。もう少し入れて欲しい。

事務局：かがみ分館の方にマンガは多く揃えている。令和6年度かがみのマンガWeekでは全館で「読んで、学んで。マンガ展」という学習漫画などの共通展示を行った。全館推してマンガもPRしている。

委員：熊本県出身の作者もいらっしたり、マンガ学科を取り入れている学校も出来たり、マンガは熊本県の文化だと思う。さらに盛り上げてほしい。

委員：本に非常に関心がある方が図書館に来館される。文化向上のためにマンガで関心を高めることができると思う。

委員：他はいかがか。

委員：どこの分館や本館を見ても電子図書館を知らないという方が結構、多数いらっしやる。今おっしゃったように本に興味がある方が図書館を利用されていると思う。そういった方が知らないことが多い。今後どのように周知を広げていくかなど対応があれば聞きたい。学校等、子どもにも知っている子が増えれば利用率が伸びるかと思う。また、働いている世代の方たちが電子図書館利用の利便性は良いと思う。ちょっと試し読みで読んでみて、興味があれば実際に借りに行くとか、予約をするとか今後伸びる分野になると思う。何か対応を考えていければ伺いたい。

事務局：電子図書館に関しては知ってはいてもなかなか利用していただけないというのが現状あると感じている。紙媒体でのチラシやSNSも図書館から発信しているので、そちらでも積極的に電子図書館に特化したイベントなども今後考えていく必要がある。児童

生徒さんに関してはタブレットで全員利用していただけるようにはなっている。子どもたちが利用していることは感じている。図書館としてここは課題として取り組んでいきたい。

委員：先程少し言ったが、広報やつしろが一番見られる方が多いと思う。使い方を解説して載せられるのも一つの案だ。

事務局：アンケートの中で建物の意見も色々出ている。施設が30年40年経ち、かなり古くなってきている。中でもトイレが狭い等、施設的な部分も出ている。いろいろ予算の関係もあるが、市の方でもできるところは少しずつでも対応していきたい。近隣の市町村では民間の企業さんとタイアップして図書館や博物館をリニューアルされている。そちらと比べてしまうと見劣りしてしまう。しかし、今のところは貸出や、電子図書館事業の内容等で、充実させていきたい。今は博物館が来年まで休館しており、博物館も図書館を利用して講座や展示会を開催している。順次、子どもたちや、一般の方の社会教育、学校教育の施設として、快適に利用できるような施設として改修やリニューアルなど手立てを考えていきたい。ご協力の方よろしくお願い致します。

事務局：8. その他

(1) 今年度の八代市立図書館の修繕予定について

空調整備の部品交換が予定されている。こちらは業者との打ち合わせが決定次第実行する予定。それから南側スロープの滑り止め張替え。こちらは1月中に実施したいと考えている。それから南側ベンチの修繕5か所は発注済みで年内に完成予定を目指している。こちらは県産の木材を材料に使用することで森林環境譲与税という財源を利用して修繕することができるものとなっている。修繕に関しては以上。

(2) 令和7年度以降の指定管理者について

現在、図書館指定管理者制度を導入し、民間会社に運営していただいている。指定管理の期間が5年となっており今年度が最終年度となっている。そのため次の令和7年度から5年間の運営について指定管理者の選定を10月18日に選定委員会を開催した。次期指定管理者として現在運営をいただいているTRCグループ共同企業体が候補者として選ばれた。12月の議会で正式に決定となる予定。

(3) 図書館協議会の開催時期について

本日開催している図書館協議会が毎年度2回会議を行っている。今回は時期がずれて11月下旬になってしまったが、今までは10月と2月ごろに行っていた。一回目の10月の段階でその年度の事業の計画などの説明をしている。しかし、すでに年度の半分以上を過ぎているという状況で同年度の計画をとというのが議事の内容と時期にずれがある。2月に行っている内容はその年度の事業の実績報告だが、まだ年度が終了していない。次年度の説明も入ってはいるが、議事と開催月のずれがある。ずれを解消するために今年度は今回の第一回で終了し、開催月を調整させていただきたい。次年度は年度当初、6月あたりに第一回目を行いたいと思っている。その時に令和7年度の計画を示し、さらに前年度の報告

もご説明する。2回目を10月ごろに行えば7年度の事業計画・予算面の方針・利用者アンケートも間に合う。

(4) 子羊文庫について

令和6年度の熊本県の優良読書グループについて図書館から子羊文庫さんを推薦させていただいて先月受賞が決定した。図書館も子羊文庫さんをはじめたくさんのボランティアグループの方にご協力いただいて、おはなし会や講座を開催している。今後とも一緒に運営していけたらと思っている。

9. 閉会